

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第51回定時総会の報告	74
○平成30年度名誉会員の推挙について	75
○第26期理事役職者の選定および会務分担について	75
○第42回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第2報） 8月14～16日開催	75
○サマーセミナー2018参加者募集！（第2報） 参加申込締切 8月3日	76
○動画募集中！ こりゃ映像！2018—ミニ動画コンテスト— 応募締切 7月31日	76
○平成31年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10月31日	77
○平成30年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9月14日	78
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	78
○学生会員入会時の特典について	79
○「送料」および「振込手数料」のご負担について 8月1日から	79
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集！！	79
○平成31年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	80
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	81
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	81
○平成30年度東北支部総会・第60回東北支部研究発表会ならびに第50回東北支部研修会・ 第40回地方講習会の開催について（第2報） 発表申込締切 9月21日	82
○第69回関東支部大会（講演会・講習会等）の開催について（第2報） 講演申込締切 8月3日	83
○第73回中国四国支部講演会ならびに第42回地方講習会の開催について（第2報） 講演原稿締切 8月31日	84
○平成30年度九州支部大会（第99回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会） の開催について（第2報） 講演申込締切 8月24日	85
○平成30年度農業農村整備サマーセミナー（第55回）の開催について 申込締切 7月20日	86
農業農村工学会論文集内容紹介	88
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	89
受入れ図書	91
文献目録	91
学会記事	95

第86巻第8号予定

展望：湖沼やため池を利する農業用排水システム，生み出される生態系サービス：堀野治彦

小特集：湖沼の水環境と農業とのかかわり

報文：肥培灌漑施設の新設と河川水中の全窒素濃度の改善効果：山崎由理ほか

報文：印旛沼における循環灌漑の水質保全効果の評価：永渕正夫ほか

報文：霞ヶ浦流域内新利根川沿岸土地改良区の水物質収支に基づく循環灌漑の導入に向けた解析：加藤 亮ほか

報文：農業用ダムにおける藻類の深度分布と水質管理：濱田康治ほか

報文：小規模な湖沼の内部波特性のスペクトル解析と適応事例：木村延明ほか

報文：湖沼・ため池の水質変動への水草の繁茂の影響：原田茂樹ほか

報文：印旛沼地域に侵入・定着する外来水草ナガエツルノゲイトウ：嶺田拓也ほか

報文：奈良大和平野ため池群の水質評価と水環境保全に向けた展望：松野 裕ほか

技術レポート

北海道支部：災害復旧事業計画書の策定のためのUAVを活用した現地測量：佐藤貴彦ほか

関東支部：富士川大橋における耐震補強工事の施工事例：向山直利

京都支部：ICT機器を活用した水管理省力化技術の実証調査：田仲 真ほか

中国四国支部：流れ盤における法面抑止工の設計・施工：加門達哉ほか

九州沖縄支部：畑地灌漑用水を利用した土壌くん蒸：横山雅敏ほか

講座：農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識（8）

—農家や地域住民による生態系修復：多面的機能支払交付金を活用した生態系保全活動—：森 健二

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成30年8月14～16日	農業用水展示実行委員会	第42回「水の週間」水のワークショップ・展示会	すごいな！いのち育てる農業用水	東京都	86巻6,7号
平成30年9月4～7日	大会運営委員会	平成30年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	京都市	85巻12号 86巻1,4号
平成30年9月6～8日	農業農村工学サマーセミナー実行委員会	サマーセミナー2018	平成ラストの若手交流,話したいことを話そう～日本の農業とセミナーの今後～	京都市	86巻6,7号
平成30年10月18,19日	中国四国支部	第73回講演会・第42回地方講習会 Ⓟ	—	松江市	86巻6,7号
平成30年10月25,26日	九州沖縄支部	平成30年度支部大会 Ⓟ	—	熊本市	86巻4,7号
平成30年10月26日	土壌物理研究部会	第57回研究集会 Ⓟ	土壌環境と気候変動(仮)	札幌市	86巻5,6号
平成30年11月1,2日	東北支部	平成30年度総会・第60回研究発表会・第50回研修会・第40回地方講習会 Ⓟ	—	山形市	86巻6,7号
平成30年11月7日	関東支部	第69回支部大会 Ⓟ	—	甲府市	86巻6,7号
平成30年11月7,8日	京都支部	第75回研究発表会 Ⓟ	—	名古屋市	86巻4,6号
平成30年11月8,9日	農地保全研究部会	第39回研究集会・現地研修会 Ⓟ	未来に繋ぐ農業農村の新しい整備・保全の取り組み(案)	那覇市ほか	86巻6号
平成30年11月20～22日	農業農村工学会ほか	PAWEES-INWEPF国際会議 奈良2018 Ⓟ	SDGsに向けた持続的な水田農業	奈良市	86巻1,3号

公益社団法人農業農村工学会第51回定時総会の報告

1. 日時 平成30年5月29日(火) 14:00～14:45

2. 場所 農業土木会館2階A会議室

3. 代議員現在数及び定足数 現在数116名 定足数58名

4. 出席代議員数 94名(内,出席7名,書面により議決権を行使した代議員61名,委任状により議決権を代理行使した代議員26名)

5. 定足数の確認等

総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。

6. 出席役員

久保成隆会長, 林田直樹副会長,

小泉 健専務理事, 荻野寿一・森 丈久監事

7. 議長の選出

久保会長が仮議長となり、全員一致で白谷栄作代議員を議長に選出した。

8. 議事録署名人の選出

議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、下野寿郎、長坂貞郎の両代議員を全員一致で選出した。

9. 議事

決議事項

(1) 議案-1 平成29年度事業報告

専務理事から同議案について説明があり、事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(2) 議案-2 平成29年度決算

専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会計の説明があった。その際、荻野寿一監事から平成29年度事業報告及び決算についてその内容を監査した結果、適正正確であるとの報告があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(3) 議案-3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、18名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(4) 議案-4 役員の選任

第25期役員の任期満了に伴い、第26期役員候補一人一人について、次のとおり選任した。

理事 20名

安中武幸, 石黒宗秀, 稲垣仁根, 内山芳彦
大浦直司, 大村 仁, 小泉 健, 齊藤政満
凌 祥之, 白谷栄作, 武田育郎, 田中丸治哉
丹後晋哉, 取出伸夫, 西村 拓, 登尾浩助
姫野俊雄, 村上 章, 山路永司, 龍 尊子

監事 2名

亀井隆夫, 森 丈久

報告事項

(1) 報告事項-1 平成30年度事業計画について

専務理事から平成 30 年度事業計画について説明があった。

(2) 報告事項-2 平成 30 年度予算について

専務理事から平成 30 年度予算について説明があった。

議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14 時 45 分議事の終了を宣言した。

平成 30 年度名誉会員の推挙について

「農業農村工学会名誉会員の推薦に関する内規」に則って平成 30 年 3 月 15 日開催の第 249 回理事会において推薦された次の 18 名の正会員（敬称略）の皆様が第 51 回定時総会の決議により名誉会員に推挙されました。

これにより名誉会員の現在数は、283 名となりました。

石川重雄, 佐藤照男, 佐藤政良, 塩沢 昌, 島田正志, 清水真幸, 竹内 悟, 千葉夏資, 飛田義裕, 長澤徹明, 長谷川周一, 松浦良和, 松本清行, 水谷正一, 宮本幸一, 三輪 式, 望月 有, 湯浅真介

第 26 期理事役職者の選定および会務分担について

平成 30 年 5 月 29 日開催の第 251 回理事会において、理事の中から定款第 27 条第 2 項の規定に基づき会長、副会長、専務理事を選定した。

また、第 26 期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のように決定した。

記

1. 会長等

会 長 村上 章
副 会 長 齊藤政満
副 会 長 山路永司
副 会 長 大村 仁
専務理事 小泉 健

2. 理事の担当部門

〔担当部門〕	〔総括する副会長〕	〔担当理事〕
企画・運営業務	齊藤政満	白谷栄作, 凌 祥之, 丹後晋哉, 西村 拓, 姫野俊雄
学会誌等定期刊行活動	山路永司	凌 祥之, 白谷栄作, 田中丸治哉, 龍 尊子, 石黒宗秀, 安中武幸, 登尾浩助, 取出伸夫, 武田育郎, 稲垣仁根
講演会等行事活動	齊藤政満	内山芳彦, 大浦直司, 白谷栄作, 丹後晋哉, 西村 拓
調査・研究活動	山路永司	西村 拓, 白谷栄作, 田中丸治哉, 姫野俊雄

編集・出版活動	大村 仁	龍 尊子, 内山芳彦, 大浦直司
国際活動	山路永司	田中丸治哉, 凌 祥之, 西村 拓
技術者教育活動	大村 仁	大浦直司, 内山芳彦, 凌 祥之, 丹後晋哉, 龍 尊子
支部業務	齊藤政満	山路永司, 大村 仁, 石黒宗秀, 安中武幸, 登尾浩助, 取出伸夫, 武田育郎, 稲垣仁根

3. 第 26 期常置委員会委員長等

企画委員会	白谷栄作
広報委員会	姫野俊雄
定期刊行物委員会	白谷栄作
学会誌企画・編集委員会	凌 祥之
論文集企画・編集委員会	田中丸治哉
研究委員会	西村 拓
出版企画委員会	龍 尊子
行事企画委員会	丹後晋哉
学術基金運営委員会	齊藤政満
国際委員会	山路永司
学会賞選考委員会	山路永司
上野賞選考委員会	西村 拓
スチューデント委員会担当	西村 拓
JABEE 担当	凌 祥之

第 42 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 2 報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実

行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めております。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つ

として出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 会期 平成30年8月14日(火)～16日(木)
2. 場所 東京国際フォーラム G棟701
3. 主催 国土交通省, 東京都, 水の週間実行委員会

4. 全体テーマ 水のハッピーデー～水について学ぼう～
5. 農業用水テーマ すごいな！いのち育てる農業用水
6. 展示内容 学生によるワークショップ, iPad アプリによるゲーム・クイズ, パネル展示, 田んぼの生き物水槽など

サマーセミナー 2018 参加者募集！ (第2報)

平成ラストの若手交流, 話したいことを話そう～日本の農業とセミナーの今後～

はじめまして, 農業農村工学サマーセミナー実行委員会です! サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。1997年から重ねて19回目となる今年は, 平成も今年で最後ということで, 「平成ラストの若手交流, 話したいことを話そう～日本の農業とセミナーの今後～」というテーマを設定しました。セミナーではグループディスカッション, 現地見学や講演会など, 参加者のみなさんが楽しんで学習, 交流できる企画を考えています。今年の農業農村工学会大会講演会は平成最後の大会です。ぜひ, 平成生まれの学生みんなで集まって, 農業農村工学やそれに関わる大学での生活などについて話し合ってみませんか?

他大学の学生と議論をしてみたい方, 将来のキャリアを見据え人脈を広げたい方, あるいは進路について相談したい方など, どんな方でも大歓迎です。同じ農業農村工学を学ぶものとして, 私たちが実現したい未来について一緒に考えましょう!

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

浅田洋平 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

田中宣多 (京都大学大学院農学研究科)

松田壮顕 (京都大学大学院農学研究科)

辰野宇大 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

大山幸輝 (鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科)

前田 顕 (宮崎大学大学院農学研究科)

尾関竣哉 (大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

関本幸一 (北海道大学大学院農学院)

吉山憶良 (北海道大学大学院農学院)

2. 日時 平成30年9月6日(木) 大会講演会終了後
～8日(土) 昼過ぎ

3. 開催地 京都府内 (京都大学周辺を予定)

4. 対象 学部学生・院生・若手研究者

5. 参加費用 13,000円程度を予定 (宿泊, 懇親会費込)
※朝食, 昼食等は各自でとっていただく予定となっております。

6. 詳細・参加申込み

詳細・参加申込みについては, 以下のホームページにて随時公開予定です。

参加申込期間: 平成30年7月2日～8月3日

URL: <http://nsumsemi.wp.xdomain.jp/>

7. 問合せ先

Email: n.n.summer.seminar@gmail.com

動画募集中! こりゃ映像! 2018—ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では, 昨年に引き続き, 下記のとおり, 農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

平成30年度のテーマは「私のかんがい施設遺産(仮)」です。「かんがい施設」とは, 農地に水を配るために使われている施設で, ため池や用水路, 堰などです。私たちの周りには, 歴史あるかんがい施設が今も変わらず使い続けられています。中でも, 世界に誇るかんがい施設として27カ所のかんがい施設が「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

今年のこりゃ映像では, そのような「世界かんがい施設遺産」を代表とする身の回りの歴史あるかんがい施設を対象に動画を募集したいと思います。身の回りの歴史あるかんがい施設の魅力を60秒に込めてYouTubeにアップロードしてください。

1. 平成30年度のテーマ 「私のかんがい施設遺産(仮)」

2. 動画の制限時間 60秒以内

3. 応募締切 平成30年7月31日(火) 17時

4. 応募資格 なし (どなたでも応募できます)

5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。

6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上, 最優秀賞1作品, 優秀賞2作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞 (1作品) 2万円
優秀賞 (2作品) 各1万円

8. アップロード方法

① 動画を作成する。

② YouTubeにアップロードする。

③ タグに3つのワード (jsidre2018, こりゃ映像, 私のかんがい施設遺産) を入れる。

④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。

⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT (jsidre.eizo@gmail.com) 宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL)

9. こりゃ映像 2017 結果 (テーマ: 農業用水)

最優秀賞: 【農業用水】人と自然の力

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 4年 山口裕里絵

https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A
優秀賞: 私の町の農業用水

岩手大学農学部農学生命課程 3年 瀧田耀平

https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgZA

優秀賞: こりゃ映像 2017 金沢工業大学 徳永研究室

金沢工業大学 徳永研究室修士 1年 笹原弘道

https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BRo

平成 31 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)

平成 31 年度の農業農村工学会賞 (上野賞, 沢田賞を除く) を, 募集要項に則って, 推薦書によりご推薦ください。

締切は, 平成 30 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

平成 31 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績
賞の対象期間	平成 25 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。ただし, その 5 年以内に発表したものと同一の課題については, それ以前に発表されたものも, 一連の業績とすることができる。	平成 27 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。ただし, その 3 年以内に発表したものと同一の課題については, それ以前に発表されたものも, 一連の業績とすることができる。	平成 27 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。ただし, その 3 年以内に発表したものと同一の課題については, それ以前に発表されたものも, 一連の業績とすることができる。	平成 29 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 29 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 28 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文, 報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文, 報文等とする。主として現場調査資料, 現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織, 団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦, 他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦, 他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で, 農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育, 技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など, 美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い, もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し, あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について, 国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット, ビデオ作品, 教材スライド, 映画等	長年にわたる, 地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて, 農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	平成 20 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発行されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発行されたものとする。	平成 28 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発行されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発行されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発行されたものとする。	平成 25 年 10 月から平成 30 年 9 月までに発行されたものとする。	平成 28 年 10 月から平成 30 年 9 月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また, 改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							平成 30 年度末に 65 歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦, 他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦, 他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦, 他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦, 他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦, 他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦, 他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	平成 31 年度農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成 30 年 10 月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

平成30年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成30年9月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

る。

- (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
- (ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成30年9月14日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典+初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたしません。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「送料」および「振込手数料」のご負担について

宅配便や郵便の料金値上げに伴い、従来学会負担としていた以下の「送料」および「振込手数料」について、平成30年8月1日からご購入者の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

①学会が発行する刊行物の「送料」の一部負担

・購入図書1冊につき

送料200円（600円を上限とする）

ただし、代金引換の場合は送料の実費を負担いただきます。

②技術者継続教育機構が発行する次の代金の「振込手数料（送金手数料）」

・CPD取得証明書

・再発行のCPD個人登録者証

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集！！

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌7月号掲載の問題は8月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 31 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 31 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成 30 年発行までの本趣旨を若干変更いたしましたので、趣旨を参考に魅力ある写真をふるってご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業（水利）施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちが現代の技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美」

2. 対象巻号 学会誌第 87 巻（平成 31 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送って

ください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成 30 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考

7. 結果発表

学会誌第 87 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 31 年度大会講演会会場内でパネル展示

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送り

9. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」としてご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが別途原稿料をお支払い

10. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 86 巻第 8 号 湖沼の水環境と農業とのかかわり (仮)	公募終了
9 号 明治 150 年と農業土木 (仮)	公募終了
10 号 SDGs と農業農村工学 (仮)	公募終了
11 号 中山間地域の将来を見据えて (仮)	公募終了
12 号 水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発 (仮)	7 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 86 巻第 12 号テーマ「水田圃場を『フル』に活用するためのビジョンとそれを支える技術開発」(仮)

世界の食料需要は、人口増加と食生活の変化に伴って 2050 年には約 69 億 t まで増加する見通しであり、生産単収の伸び率の鈍化や地球環境の変化による生産量低下のリスクから、国際的な食料争奪が懸念されています。

一方、わが国では人口減少・高齢化などにより主食用米の需要が減少する中、米政策の改革を着実に進め、農業経営体が自らの経営判断に基づき作物を選択できる環境を整備するため、平成 30 年度産米からは生産調整が廃止されることとなりました。

このような現状の中で、日本農業の基盤である水田での生産を維持し、米を安定的に供給することに加え、食料自給率・自給力を向上させ、多面的機能の維持強化を図る必要があります。水田での生産物である米のおいしさや安心・安全を確保しつつ、水稲作の省力化・低コスト化を進めるほか、麦・大豆・

飼料作物などの主食米以外の生産により水田を最大限に有効活用(フル活用)することも求められています。

これらの取組みには、水田の大区画化、排水改良や地下水水位制御システムなどを利用した水田の汎用化・高機能化、ICT などを活用した水管理・営農の省力化、コスト低減、気候変動への対応、多面的機能強化などに関するさらなる技術開発とその導入が求められます。また、そのためのビジョンの作成や、こうした取組みを支える農業者への支援も欠かせません。

そこで本小特集では、水田圃場を「フル」に活用するためのビジョンや技術の紹介、その取組み事例や課題、展望、調査や研究の成果、最新技術の開発について、事業主体、行政、大学、研究機関、開発事業者およびメーカーなどから広く報文を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理，地すべり，気候変動，災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

また，世界 14 カ国から Editor（18 名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方，2018 年 7 月から，新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 18 名
- ・ Editorial Advisors 30 名
- ・ Chief Management Editor
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
- Dr. Inhong SON
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局（2018 年 7 月から 2020 年 6 月まで）

・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等： <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年 4 回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込みください。

なお，オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局

平成 30 年度東北支部総会・第 60 回東北支部研究発表会ならびに 第 50 回東北支部研修会・第 40 回地方講習会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 30 年 11 月 1 日（木），2 日（金）
2. 会 場 大手門パルズ
〒990-0044 山形市木の実町 12-37
TEL : 023-624-8600
3. プログラム概要（案）
[第 1 日目] 11 月 1 日（木）
(1) 支部総会・研究発表会
(2) 情報交換会
[第 2 日目] 11 月 2 日（金）

- (3) 支部研修会・地方講習会
4. 研究発表の申込み
(1) 申込み・原稿受付期間
平成 30 年 8 月 20 日（月）～9 月 21 日（金）
(2) 申込み・問合せ先
〒997-8555 鶴岡市若葉町 1-23
山形大学農学部食料生命環境学科 石川まで
Email : ishikawa@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp
(3) 要領

研究発表要旨集原稿の書き方、投稿票ファイルおよび発表の方法については、農業農村工学会東北支部のホームページに掲載していますので、ご参照ください。

5. その他

詳細は本誌8月号に掲載予定です。

第69回関東支部大会（講演会・講習会等）の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催（公社）農業農村工学会関東支部
後援 農林水産省関東農政局, 山梨県
2. 支部大会（講演会・講習会等）
 - (1) 日時 平成30年11月7日（水）10：30～17：00
（受付9：30～）
 - (2) 会場 ベルクラシック甲府
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-1-17
TEL：055-254-1000
<http://www.bellclassic-kofu.com>
・受付 1階フロア
・開会式・授賞式 3階会場
・講演会 2, 3階会場
・講習会 3階会場
 - (3) 会場への案内
○甲府までの所要時間（特急使用）
新宿駅 →（中央本線：約1時間40分）→ 甲府駅
松本駅 →（中央本線：約1時間15分）→ 甲府駅
富士宮駅 →（身延線：約1時間30分）→ 甲府駅
○甲府駅北口から会場までの所要時間：徒歩約3分
○会場までの交通手段のお願い
当施設は無料駐車場スペースが少ないので、できる限り公共交通機関をご利用願います。
3. 情報交換会
 - (1) 日時 平成30年11月7日（水）17：30～19：30
 - (2) 会場 ベルクラシック甲府
4. 参加申込方法
 - (1) 申込方法
「第69回農業農村工学会関東支部大会申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mailまたはFAX、郵送にてお申し込みください。
 - (2) 申込期限 平成30年8月31日（金）
 - (3) 参加費
・講演会と講習会 2,500円（講演発表者（共同発表者は除く）は無料）
・情報交換会 6,000円
 - (4) 昼食
昼食を希望される方は、お弁当（1,000円）を用意いたしますので、参加申込みと同時に申し込みください。ただし、講演発表者（共同発表者除く）は無料です。
 - (5) 参加費等の納入方法
平成30年9月28日（金）までに全額前納してください

い。なお、キャンセル、変更については、平成30年9月28日（金）以前の申し出に限りまして、振込手数料等の実費を差引き返金いたします。それ以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしくお願いたします。

【留意事項】

振込手数料は、各自にてご負担願います。

【振込先】

山梨中央銀行 県庁支店

店番号：258 口座番号：普通 693974

口座名義：農業農村工学会関東支部運営委員会

（ノウギョウノウソソコウガクカイカントウシブタイカイウンエイインカイ）

※振込元が申込書と照合できるように、氏名・所属の順で必ず記入願います。

(6) 申込先および問合せ先（事務局）

山梨県農政部耕地課技術管理担当 志村, 今村

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1

TEL：055-223-1627 FAX：055-223-1624

E-mail：kouchi@pref.yamanashi.lg.jp

(7) 申込様式

申込様式は、山梨県農政部耕地課ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

(<http://www.pref.yamanashi.jp/kouchi/index.html>)

第69回農業農村工学会関東支部大会（講演会・講習会等）参加申込書

所 属		電話番号			
申込者氏名		FAX 番号			
E-mail					
所属所在地	〒				
ふりがな 氏 名	区 分	参 加 者		昼 食	合計額
		講演会・ 講習会	情報 交換会		
	発表者 共同発表者 学 生 一 般	参加の有 無を○× で記載	参加の有 無を○× で記載	昼食の有 無を○× で記載	金額を記 入
例) 関東太郎	一般	○	○	○	9,500円
例) 関東次郎	発表者	○	○	○	6,000円
合 計					円

5. 講演発表者申込方法

- (1) 申込方法

農業農村工学会ホームページの支部のページ (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>) の関東支部の欄にある「支部講演会投稿票」に必要事項を記載し、4.(6)の事務局あてにメール送信してください。受領確認はメールで行います。

- (2) 申込期限 平成30年8月3日(金)
- (3) 原稿締切 平成30年8月24日(金)
- (4) 原稿枚数 2枚または4枚
- (5) 申込先および問合せ先 4.(6)に同じ
- (6) 講演時間 質疑応答を含め15分程度
- (7) その他
幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演概要(200字)は学会誌や学会ホームページなどで公表させていただきます。

講演会発表者(共同発表者除く)の参加費・昼食については無料です。情報交換会は6,000円です。

4.の参加申込みにて昼食および情報交換会について申込みをお願いします。

6. その他

- ・宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自での対応をお願いします。
- ・詳細は、山梨県農政部耕地課ホームページをご確認ください。
(<http://www.pref.yamanashi.jp/kouchi/index.html>)

第73回中国四国支部講演会ならびに第42回地方講習会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

開催日:平成30年10月18日(木)
会場:くにびきメッセ
〒690-0826 島根県松江市学園南1-2-1
TEL:0852-24-1111 FAX:0852-22-9219

2. 情報交換会

開催日:平成30年10月18日(木)
会場:未定

3. 地方講習会

開催日:平成30年10月19日(金)
会場:くにびきメッセ

4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意ください。

- (1) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先
島根県農林水産部農村整備課 綿貫・福島・竹谷
〒690-8501 島根県松江市殿町1
TEL:0852-22-5142 FAX:0852-31-6274
E-mail:nouson@pref.shimane.lg.jp
- (2) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先
島根大学生物資源科学部 深田耕太郎
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL:0852-32-6550
E-mail:fukada@life.shimane-u.ac.jp

5. 講演申込み

- (1) 講演原稿
講演原稿は、図、表、写真などを含めて1課題3ページ以内とします。
投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のペー

ジ(<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>)に掲載してある講演原稿の書き方によって原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票(前記支部のページからダウンロードできます)をメールにより上記の原稿提出窓口までお送りください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。受領確認はメールで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者の方は必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

- (2) 講演資格
発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。
- (3) 講演方法
個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。
- (4) 講演時間
1課題につき15分程度です。
- (5) 講演要旨集
申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。
- (6) 参加申込み
講演者は、講演申込みとは別途に参加申込みも行き、必ず参加費を納入してください。なお、参加申込書等の詳細は、第3報でお知らせする予定です。
- (7) 原稿の締切
平成30年8月31日(金)必着をお願いします。

6. 詳細

講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌8月号以降に掲載予定の第3報でお知らせします。

平成 30 年度九州沖縄支部大会（第 99 回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会）
の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

平成 30 年 10 月 25 日（木）
9：30～17：00 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会
18：00～20：00 情報交換会
平成 30 年 10 月 26 日（金）
9：30～10：30 講習会
10：50～16：30 現地見学会
大切畑ダム（被災現場）・阿蘇大橋（被災現場）・鼻ぐり井手（歴史的施設）

集合時間：10：45
集合場所：熊本テルサ前ロータリー
予定コース：熊本テルサ→大切畑ダム（被災現場）
→阿蘇大橋（被災現場）→鼻ぐり井手（歴史的施設）→交通センター近く（下車）→熊本駅（下車）
※途中、昼食、休憩あり。現場状況等により見学地が変わることがあります。また、交通事情により終了時間が前後することがあります。

2. 会 場（開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会・講習会・情報交換会）

ホテル熊本テルサ（<http://www.kumamoto-terrsa.com>）
〒860-8517 熊本市中央区水前寺公園 28-51
TEL：096-387-7777 FAX：096-387-7575
（市電：市立体育館前電停より徒歩 10 分、
バス：「熊本テルサ前」すぐ、「熊本県庁」徒歩 5 分）

3. プログラム

- (1) 10 月 25 日（木）開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会・情報交換会
- ① 8：30～ 受付（1 階 テルサホール前）
 - ② 9：30～10：00 開会式（1 階 テルサホール）
 - ③ 10：00～10：20 支部賞授賞式（1 階 テルサホール）
 - ④ 10：30～12：00 シンポジウム（1 階 テルサホール）
「熊本地震の復旧復興状況報告」熊本県農林水産部
「九州・沖縄の断層について」（仮題） 広島大学
 - ⑤ 12：00～15：00 講演会【ポスターセッション】
（1 階 テルサホール、3 階 受付前）
 - ⑥ 13：00～17：00 講演会【オーラルセッション】
第 1 会場（1 階 テルサホール）
第 2 会場（3 階 たい樹北）
第 3 会場（3 階 たい樹中）
第 4 会場（3 階 たい樹南）
 - ⑦ 18：00～20：00 情報交換会
（1 階 レストラン「NORI つち山」）
情報交換会の中で、ポスター賞授賞式および交流会を行います。
- (2) 10 月 26 日（金）講習会・現地見学会
- ① 9：00～ 受付
 - ② 9：30～10：30 講習会（3 階 たい樹）
「設計基準：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計『ポンプ場』の改定について」
 - ③ 10：50～16：30 現地見学会

4. 参加費

	講演会 (10/25)	講習会 (10/26)	現地見学会 (10/26)	昼食 (10/25)	昼食 (10/26)	情報交換会 (10/25)
一般料金	6,000円	2,000円	4,000円	1,000円	1,000円	3,000円
学生料金	3,000円	1,000円	3,000円	1,000円	1,000円	3,000円

※1 シンポジウムの参加費は無料です。

※2 参加費内訳

講演会：講演集代 6,000 円（学生 3,000 円）

講習会：テキスト代 2,000 円（学生 1,000 円）

現地見学会：バス代経費 4,000 円（学生 3,000 円）

5. 講演会（オーラル・ポスター）の発表申込み・発表方法

平成 30 年度支部大会の運営および参加申込受付は、大会運営事務局（熊本県）が担当し、講演会の発表申込受付とプログラム編集は、九州沖縄支部事務局（宮崎大学）が担当します。講演会の発表については、下記によりお申し込みください。なお、オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法は下記のとおり統一されています。また、学生会員（学部生・研究生・大学院修士）はオーラルセッションではなく、ポスターセッションにお申し込みください。

(1) 投稿方法

「講演要旨（PDF 形式）」と「講演会投稿票（MS-Excel 形式）」の各ファイルを電子メールに添付してご投稿ください。電子メールの件名には「2018 九州沖縄支部大会（熊本）」と記載してください。

なお、講演要旨と講演会投稿票は、9. の支部ホームページからダウンロードしてご利用ください。

(2) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

9. の支部ホームページから、「講演会投稿票・講演要旨の書き方および電子投稿要領」をダウンロードし、ご参照ください。

また、過去 15 年以内に価値ある業績等を通算 3 回以上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制ですので、受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票に必要事項を記入して申告してください。

(3) 投稿先（九州沖縄支部事務局）

E-mail：nakazono@cc.miyazaki-u.ac.jp

(宮崎大学農学部 中園)

(4) 投稿締切

平成30年8月24日(金)

(5) オーラルセッションの発表方法

1 課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて12分程度です。発表用機材としてパソコン(OS:Windows, ソフト:MS-PowerPoint2013)とプロジェクターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用機材は用意することができませんのでご了承ください。

(6) ポスターセッションの発表方法

原則として学生会員(学部生・研究生・大学院修士)を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。事前のポスター送付は不要です。

なお、ポスターセッションは平成29年度までは12時～13時に行っていましたが、平成30年度は15時終了となる予定です。

① 用紙および枚数

1 課題当たり A0 判(縦)1枚以内

② ポスターの掲示

10月25日(木)11時までに、発表者の責任で掲示用パネルにポスターを掲示してください。掲示用パネルのサイズは(高さ)1.70×(幅)1.13mとなる予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込書により所属ごとに取りまとめ、下記8.の大会参加申込受付(参加申込先)へ、メールまたはFAXによりお申し込みください。(できるだけメールでお願いします。)

なお、講演会での発表希望者も参加申込みが必要です。参加申込書(MS-Excel形式)の作成は、下記9.の支部

ホームページからファイルをダウンロードしてご利用ください。

(2) 申込期限

平成30年8月31日(金)

※会場の都合により定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

(3) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、9月中旬までに確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認の上、同封の請求書記載の期限までにお振り込みください。

※振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意ください。

(4) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配は行っていません。宿泊施設の利用をご希望の方は、8.大会参加申込受付の(株)山一観光まで個別にお申し込みください。

7. 大会運営事務局

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局

(熊本県庁農林水産部農村振興局技術管理課農業土木技術班 担当:磯本)

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

TEL:096-333-2426 FAX:096-383-0367

E-mail:kuwahara-s-dh@pref.kumamoto.lg.jp

8. 大会参加申込受付(参加申込先)

(株)山一観光

〒862-0926 熊本県熊本市中央区保田窪2-12-6

TEL:096-340-1111 FAX:096-340-1256

E-mail:tehai@yamaichi-kanko.co.jp

9. 支部ホームページ

農業農村工学会ホームページの支部のページ:

<http://www.jsidre.or.jp/kyusyu/>

平成30年度農業農村整備サマーセミナー(第55回)の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成30年度農林水産省の予算重点事項には、強い農林水産業のための基盤づくりとあわせて、人口減少社会における農山漁村の活性化があげられ、農村振興技術者に対する期待が高まっています。

今年のサマーセミナーでは、高齢化・人口減少が進む農村地域における農村の基盤づくりに関して、今国会で成立した土地改良法の改正と、近年大きく取り上げられている儲かる農業と基盤整備の関連、また、人手不足の問題を解消するための各種テクノロジーについて、多方面の講師からお話を伺う機会といたしました。儲かる農業については、基盤整備を契機として多様な農業の展開を図っておられる「イーノなかのはま100」の高橋代表理事より、土地改良法改正については、農林水産本省の神田土地改良企画課長および現地の状況について明治用土

地改良区の竹内専務理事より、入手不足を解消する各種テクノロジーについては大臣官房政策課の山田技術政策室長よりお話をお聞きするなど、最新の情報を提供いたします。

新たな農政の展開の中で、農村振興技術者は適切かつ積極的に対応していくことが求められています。今回のサマーセミナーに多数のご参加をいただき、最近の農業農村をめぐる動きについて最新かつ幅広い情報を吸収していただければ幸いです。

1. 主催 全国農村振興技術連盟

後援 (公社)農業農村工学会

2. テーマ 高齢化・人口減少に対応した農村の基盤づくり
～儲かる農業、土地改良法改正～

3. 日時 平成30年8月3日(金)9:50～16:50

受付は9:10から行います。

4. 場 所 東京都港区虎ノ門2-9-14 発明会館地下ホール
TEL: 03-3502-5499
東京メトロ銀座線虎ノ門駅から徒歩5分
(昨年度と会場が異なりますので、ご注意ください。)

5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

- 9:50~10:30 開会挨拶
大賞表彰式
- 10:50~12:10 講演
「基盤整備を契機とした儲かる農業 (仮題)」
農事組合法人イーノなかのはま100代表理事 高橋正徳
- 12:10~13:10 (休憩)
- 13:10~14:30 講演
「土地改良法改正の概要 (仮題)」
農林水産省農村振興局土地改良企画課長 神田宜宏

14:30~15:40 講演

「土地改良区を取り巻く現状 (仮題)」

明治用水土地改良区専務理事 竹内清晴

15:40~15:50 (休憩)

15:50~16:50 講演

「人手不足に対応した技術開発について (仮題)」

農林水産省大臣官房政策課技術政策室長 山田広明

6. 参加費 8,000円 (参加費は当日会場で申し受けます。昼食代は含みません。)

7. 申込締切 平成30年7月20日 (金)

8. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kensyu@n-renmei.jp

申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ
(<http://www.n-renmei.jp/>) をご覧ください。

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月よりJ-STAGEを利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→ 電子投稿・査読システムの導入により、最短2カ月で審査終了!

→ 審査終了後、順次J-STAGEに掲載!

→ 論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、

冊子体も配布、掲載料も低価格!

→ 投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に!